

## 編輯室の内外

▽帝國議會も終了した、併し何を残したかを想ふとき、之が憲政の審議機關であるかを疑はしむる、成る程、いつもの議會に見るやうに駆り合は無かつた、併し其の審議振りは議會の機能を抛棄してゐる。之で立憲政治と言ふのだから國民は政治思想に惑ふのである、矢張り卷頭言子のやうに理想的第三黨の出現を希望する。

▽政府豫算も成立した、新年度に於ける事業は之から始まる、我路政も一層滋きを加へるのであるが、夫れでも尙足らないとする向もあるらしい、夫等の府縣へお知らせしたいことは、失業應急事業の補助として七百萬圓の社會局豫算が成立したことだ、其の分配に預つて道路事業を執行することは併せて失業者を救濟することが出來て一

石二鳥的な考案だ、夫れに長官丹羽氏は路政の大家として常に格別の趣味を持つてゐる、是れ位拍子の揃つてゐることは無いの

だから、時局匡敷道路費の配分に不足な方々は、社會局へ、社會局へ。

▽議會が終了したので政府の役人達もヤレ

ノ、と言ふ態。例の本會理事である北海道廳長官の佐上さん、編輯室を訪れての話、

北海道は土木王國と言はれる位に土木費豫算が成立した、之で道民に慰安を與へ例の救濟問題も雪と同じやうに解決する、ドー

此後も續稿する積り、地方資料の提供を希望して已まない。

本誌定價 五十 錢  
一ヶ年分 金 六 圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社團道路改良會  
東京市澁谷區幡ヶ谷本町三丁目三五六  
發行兼 編輯者 小島 島  
東京市小石川區諏訪町五六  
印 刷 所 常磐印刷所  
印 刷 者 堀江關武